

2021年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書



いよいよシーズン突入。アドバンス生も実戦トレーニングが本格始動。
決勝ではワンツーフィニッシュを決め、幸先の良い初戦となった。

3月28日(日) 公式予選/9:20~9:30 ◎天候・路面:Rain/Wet

#6 堀井颯大・予選3位 #18 江澤伸哉・予選4位
#64 中村煌・予選5位 #56 小田喜阿門・予選6位
#52 上江洲葵要・予選15位

2021年の鈴鹿選手権サンデーロードレースシリーズがいよいよ開幕。SRS-Motoアドバンス生は今シーズンも同シリーズのJ-GP3クラスで実戦経験を重ね、さらなるスキルアップを目指す。開幕戦には6名のアドバンス生がエントリーした(永山陽梨は金曜日の練習走行で転倒し、負傷欠場)。

予選・決勝日となる3月28日はあいにくの雨模様。路面は全域にわたってウェット状態だったが、降水量は決して多くはなかったため、路面コンディションの見極めがタイムを削るカギとなる。アドバンス生が参戦するJ-GP3クラスには全18台が出走。10分間の予選セッションでは江澤伸哉や小田喜阿門、堀井颯大らが集団の前方に位置付けて積極的にタイムを削っていく。だが7周目、一時はリーダーボードのトップに浮上した小田喜が逆バンクで転倒を喫してしまった。

堀井、江澤は難しい路面コンディションの中、徐々にタイムを延ばしていくと共にラストラップの10周目にベストタイムを記録する。その結果、堀井は1分01秒120で3番手グリッドを獲得し、江澤が1分01秒400で4番手となった。中村煌が江澤に続く5番手で、転倒してしまった小田喜が6番手となった。上江洲葵要は15位で予選を終えている。

3月28日(日) 決勝レース(東コース8周) ◎天候・路面:Rain/Wet

#18 江澤伸哉・総合1位/インター 1位/NSFチャレンジ 1位
#6 堀井颯大・総合2位/ナショナル 1位/NSFチャレンジ 2位
#56 小田喜阿門・総合4位/ナショナル 2位/NSFチャレンジ 3位
#52 上江洲葵要・総合12位/インター 6位/NSFチャレンジ 6位
#64 中村煌・転倒リタイア

午前よりも雨脚が若干強くなる中、決勝レースがスタート。2列目からスタートした小田喜は、体の軽さを生かしてロケットスタートを決めると、そのままトップに浮上する。だが1コーナーの進入で江澤が小田喜のインを突いてすぐさまトップに浮上する。続く2コーナーでは堀井も小田喜をパスして逃げる江澤を追走する。3番手の小田喜に中村も続き、レース序盤は上位4名をSRS-Moto勢が占めるという展開に。

江澤、堀井は2周目以降後続との距離を一気に広げ、チームメイト同士の首位争いを繰り広げる。その後方、小田喜と中村の3位争いには、さらに2台のマシンも加わり、周ごとに順位を入れ替える激しいバトルに発展する。トップ争いの2台はレース中盤以降も僅差で周回を継続するが、首位を走る江澤は堀井につけ入るスキを一切与えず、終始トップをキープ。そのまま8周を走り切り、開幕戦を勝利で飾った。

堀井はわずか0.125秒差の2位で、ナショナルクラス優勝。小田喜、中村らによる3位争いは最終ラップに中村が転倒して脱落。3位で走行していた小田喜も後続に先行されて4位でのゴールとなった。上江洲は予選から3つポジションを上げ、12位でチェッカーを受けている。



2021年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス：予選総合4位/決勝(総合・クラス・NSFチャレンジ)1位

江澤伸哉(えざわ しんや) 15歳

『予選が行われた午前中は、雨量が少なかったために路面がスリッピーで、気持ちが少し引いてしまいました。そのためタイムは思うように伸ばせませんでした。決勝では、直線が早い小田喜選手が後方から出てきましたが、クロスラインを使うことですぐにトップを奪えました。その後は積極的に飛ばしていきましたが、S字が得意な後方の堀井選手に先行されないように、あまり得意ではないS字も積極的に攻めましたが、そのおかげでタイヤがしっかりとグリップし、ペースを上げることが出来ました。総合優勝ができたことは素直にうれしいですが、タイムが1分を切れなかったことが課題として残りました。SRSは雨の中でもたくさん走らせてくれるので、今後もそういった機会を大事にしたいですね。まずは初戦で勝てたので、このいい流れを継続したいです』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合3位/決勝(総合)2位・(クラス)1位・(NSFチャレンジ)2位

堀井颯大(ほりい そうた) 15歳

『今回は自分のペースを意識してタイムを上げるということに集中しました。予選は雨量が少なかったためグリップが良くない状態でしたが、そんな中で自分の限界を高め、その限界を超えないような走りが出来たと思います。決勝では、スタートで前に出て、最初の1周で後方を離すことを意識しました。先行を許してしまった江澤選手をとらえることはできませんでしたが、そんな中でも自分のペースで走ることを意識できました。ドライでもレインでも最初の1周が大事です。とにかく序盤でトップに立って、後続を引き離せるレベルのライダーにならないといけません。いかに単独でタイムを上げられるかが今後の練習の課題です』



ナショナルJ-GP3クラス：予選総合6位/決勝(総合)4位・(クラス)2位・(NSFチャレンジ)3位

小田喜阿門(おだき あもん) 13歳

『練習から好調だった堀井選手についてタイムを出そうと思っていましたが、堀井選手より前で走ってしまい、それならば引き離そうと思ったんですが、思うようにペースを上げられませんでした。決勝では体重の軽さのおかげで、スタート直後にトップに立てました。でもすぐに江澤選手と堀井選手に抜かれてしまい、やがて自分の走りのリズムも崩れてしまいました。さらに最終ラップでは後続にも先行を許し、4位という結果となりました。ダメな結果ですけど、今後の課題がハッキリと見えるレースだったと思います。自分の弱いところは、レース中に後ろが気になってリズムが崩れ、ラインもバラバラになるという点です。そういった弱点を克服しなければいけません』



2021年鈴鹿サンデーロードレース第1戦 参戦報告書

インターJ-GP3クラス：予選総合15位/決勝(総合)12位・ (クラス)6位・(NSFチャレンジ)6位 上江洲葵要(うえずあおい)15歳

『今回のレースは、バイクに対してトラクションをうまく掛けることが出来ず、その結果恐怖心が出てきてしまいました。気持ちが一步下がり、当然タイムも悪かったです。決勝ではサスペンションを柔らかくしてもらい、車体は完璧な状態でした。ですが自分の操作が悪く、レースでは何もできませんでした。これまでの自分は雰囲気とか勢いだけでタイムが出ていました。でもバイクの動きにはちゃんと向き合えていなかったと思っています。トラクションをかけるのがヘタということを再認識したので、今後は雨の中でも積極的に練習したいです。先生方の話を聴くだけでなく、同時に実践して身に付けていこうと思っています』

ナショナルJ-GP3クラス：予選総合5位/決勝リタイヤ 中村煌(なかむらこう)15歳

『予選は10分という短い時間の中でタイムを出さなければいけませんでした。バイクには問題はありましたが、自分自身に問題があり、満足のいくタイムは出せませんでした。決勝では江澤選手、堀井選手についていこうと思いましたが、それは難しかったです。レースの終盤は、自分の前を走る小田喜選手をS字でパスしようと思いつつ走っていました。でも後続のライダーも同じ考えだったので、小田喜選手と後続の選手に挟まれるような状態でS字に入ってしまう、その結果転倒してしまいました。その時はインから前に出ようとばかり考えていましたが、アウト側のラインやクロスラインを使うという方法もあります。その方法を使えなかったのは、技術が足りないからだと思っています』

岡田忠之 Principal

『今回は様々なメニューを順調にこなすことができました。今年からアドバンスに上がった3名は、まだまだやらなければいけないことがたくさんあり、今後も段階を踏んでいろんな経験をしてもらいます。今回は雨の中でのレースとなりましたが、序盤はトップ4をSRS勢が占めるなど、いい形のレースだったと思います。なおかつ江澤、堀井は練習を上回るタイムのラップを刻んでいて、その点は評価したいですね。また小田喜、中村も3位争いを繰り広げる中でいろんな経験が出来たのではないかと思います。』

上江洲ですが、彼はレース後「何も考えずに走ってしまい、その結果ふがいない成績となってしまった」と言っています。この結果を受けて、今までの自分を振り返ることができたんだと思います。この悔しい思いが、考え方を変わるきっかけになるでしょうね。

技術はもちろんですが、まずは人間性が重要です。そこが強くならなければ結果には結びつきません。それぞれの生徒に、トライしないといけないことはまだまだたくさんありますね』

